

右は爐炭の寸法、炭の大小見合、第一に切べし、總じて爐中冬は爐深ク、春に成ては淺ク致候、寒中は下火も多ク入、炭も多ク置申候、春二月比は下火も輕ク、炭も心持可有之事也、炭切申候て、とくと水にて洗ひ、日にほしてつかひ申候、洗ひ不申候ては、炭の粉落て惡敷有之候也、
一白炭寸法無之候

〔茶之湯六宗匠傳記〕^五小堀遠江守宗甫公自筆の寫

一輪炭は壹寸八歩と定りたりと云ども、うすきニあきはなく候、

一炭は色々切が能候、胴炭七寸に切が能候、

一點取炭、壹寸五歩に切べし、又物數寄有炭には寸法不定、^略_中

一風爐の炭、胴炭三寸五歩、三寸も吉輪は壹寸、又は壹寸五分に定る、其外には寸法なし、子細は風

爐は炭は口ばかり也、

〔茶道答蹄〕^三炭の事

胴炭 爐は五寸 風呂は四寸 輪炭 爐は二寸二分 風呂は一寸五分 管炭 胴炭と

寸法同じ 四方炭 爐は二寸五分 風呂は二寸

〔茶道聞書集〕^甲胴炭、輪炭、白炭、毬杖炭と云、長キ炭、小キ炭と云よし、他流にレン炭と云有、輪も薄し、

家の風はあつし、

胴炭 管炭 爐五寸 風爐四寸 輪炭 爐二寸二分 風爐一寸五分 四方炭 毬杖

炭 爐二寸五分 風爐二寸

炭の寸法右の如し、本文長キ炭といへるは管炭、小キ炭といへるは添炭、小キ炭の寸、四方炭に同じ、

〔茶具備討集〕灰 焦灰 粒灰 豆粉灰